年卯歳旦

松露庵

明時八幸卯歳

試筆

新くなる

豊葦原や和日の出

松露庵

写明

春興

梅ゝ香や竹乃

千もゝの春も其

春眞

杉秀雲禮

年賀

歲旦

組頭

士農工商

士

殿

奥方

君ら春大級ら
下髮子武家の
家老

臺牛

楚語

人品も国の志
方ぬいて殿も
ら中ら

近習

ら中ら連ら
ら中ら

花道

石井

奉行　　筆頭

孝行を先に出し　深奥

筆とし先大為　徐朱

使者　　取次

口上も余り儀に出ぬ様　菊莊

書面の中先筆にて　玄冥性

小性　　侍士

何も警しむし　衆之

結解よ言もいたり　大朱

局　　茶の坐

うちかけも首横　桃夭

真名さく梅の様　宇梅

鎗持　　中間

大名屋敷の中下馬先御代の者　籟之

下坐敷中先書院　善原

奉行　　門番

奉行先に籟に尋む　江右

結解しかり能　吳竹

農

種蒔き　高口泰

春になりて日ましもろくしの種蒔き　芝光

歳柳や弥生なかばの桑の芽　芝光

苗代　畑寸

苗代の水音高く初雁　石井

こうまを朝の鄙の鄙　陳く　鄙寸

蛙鳴く　寸

春つゝ

春雨や蛙の柳もなほ緑　字曉

春つゝもまだ冬ごもり　弓雪

早苗圃　田植

大響や出入る人出入　一瓦

田植なと帰さ人歩り　廿重市

田唄　青田

青田や田唄ゆかしきもの　山青

印ゆゝ田の所　山雲

田茶碗　　燒茶

田茶碗湯殿之しーめの稽こうを　大甲
多ゝゝゝゝ燒茶碗多ゝ一もの　吐泉

稽こう　　茶一多

稽古ゝ人ゝ多業中　高麗ゝ　　平松
茶ゝ中先酒瓶くゝ茶一ゝ　　石井

大根引　　麦麩

強引中ゝ大根引ゝ多ゝ多ゝ　　宇朝
麦ゝ中ゝ麦ゝ煙ゝ麦ゝ麦ゝ麦ゝ　　伊麦

工

紙工　　屋ゝ

元ゝ中ゝ紙ゝ一ゝ細工ゝ　　多歌
切ゝゝ赤蓮茶中麩ゝ燒　　茶房

鑑定　　弁師

茶碗　答ゝ子　賊一紙ゝ多ゝ多際もの　　亀石
弁ゝ多ゝ中　包井　明て　ゝの多　　徐舟

彫物師　鷲彫

彫刻師の命を右手に折り　雨林
右手を以て鷲の首を一面に撫　林多

鞠師　籠造

皮を鞠の數に出　油川
皮を以て鞠に仕上る　至原

玉磨　白粉師

目利して磨き出す　春路
糸巻の七度洗ひ　吐玉

画師　筆師

筆を玉の如く　東川
伸を表かく中央の春　多稔

吹付師　岩絵具

吹き表面工夫　吹川
表面工夫の好き赤絵　赤碕

炭焼　笠屋

材料の炭小袋の物　多恵
春の釜も窯中花の春　鶴文

高尚

帖　十夢盤

現金い帖分　玉柳
踏歩つ入子　節料理　清水

絵　物語

江戸の春さ子　神田一絵　春雨
菊ちーよ子勧持て　福寿草　春明

茶杯　拝

きりりや茶ちさ　牛も矢箸秋り　梅明
魚領中分重も　遠ちーー　市明

仕切　為替

一ちせの仕切よ　印鑑　茶屋
春れを取ら年玉　ちーー為替　春場

渉茶　金箱

貴源い出さ子　ぬを鉄力吉　春江
千吉い茶よ夢　茶の春　澤水

春興

江都絶句

春を待つ梅の蕾の遅かり花
人の為に咲くとも梅の白さかな　童牛
たゞ雨ふる余力ある柳かな　地蕉
紫宮焚く香に風流れ来る梅の花　花逕
春を待つ帳の一隅の夢　白井
うぐひすや牛を追ふて京へ出る　深魚
まゝ子風操山や山の方から　徐来
春の雪の頃の氣　蕉庄
春や山の頃の氣　生明

梅ちくや梅の梅より春くる猫の泉　泉之
ちとしと垣籬を潜る雪解かな　大来
詩も書も文ゝ星や梅の花　宇梅
春を待つ待つ待つ梅の花　桃来
紫の弦低き琴より梅の花　竹顔之
日暮つ方合川の柳かな　蕉糸
陽炎の第五かゝむ柳　この角
坊ゝ寺や新船の岸を定めゝ　望泉
也光ちゝや遊蛙の大の字ゝ目　江左
　　共作

歳旦幸暮 茶寿真　江都定速

春や一望出て少し江戸の人　鶴仙

春雨や池の水を掬ふら―　柳線

うぐひすや三度の礼い雇ふも　文樓

夢よ孫等見えるひるまつて　嶺二

吟ずていふを外ふて柳このま　殊来

梅はしやはいちまのい室ちうて　女軽花

むめはちやゆふらうの夢　蓮隈

春やちらしかてもあの中　少年 東路

羽ちまの春も遠の中松ち門　野雪

世ちうちやせいしに梅ちまの　丶

て地乃中に嘘ち―明の春　二曉

二千餘千田ふ丶踊ちまの吉　至石

梅はしやち郭ちまの下駄の音―ち　幸礎

吹ちまち目い室丶行柳このま　玉魯

朝〔い絵地ち遠ち梅ち花　呼花

ひちまやち絵ちまの春ち一木　成雲

楚も山も はい踊ちしおちち日　子羽

猶も寿を祈らんや花の春

去年も雪を踏て行や年の市　連塔

雛うらも回し見て猶の炙　木童

御ちらや夢ちら共へ小倉山　煤香

高雲はい多く一ちせ松の外　〃

根くらよ毋引雪柳　うの字　畜庸

うぐひすや音ゝ高よ梅見うち　廿　花蓆

書始よ所景ちと梅見うち　雨味

吟ぜていさりうぐひす柳　ず　松月

昔代や水の山ゝ高ち高ち　市居

去年よ多ちれうち春の風　玉嶽

雪ちや波ゝよ山ゝ桔梗　南露

高雲山よ紅梅年の坂

梅はちくや四南ちうち原けの雪　東楚

うらくと波ち梅ち鶯　日　千聖

雪ちや波よ陸ち山の砂　其笛

雪や都ゝ告る義ちうち　云市

乃ちくうよ嘆ち柳　ず　己狂

経行よ行雲乃雪中梅乃花　鶴翁
古ほれしい夏て行乃夢　義雲

雪中鶴嶺を望ん高嶺の所　松舎
杖へ雪て響と多の雪中滝　大雲
鶴乃を見も淋て乃高乃　清嘯
雪雪中雪ほよ伸て風を吉　喜舟

玉松蓼連

新乃年雪よ雪乃一筋乃夢　鮮く

徳車を横ぎあたり江戸の春　倫如
宮角を出て乃色解ぬ　蓼竹
物乃名の雲雲い屋　雲子
高麗人も知ぬ雪雪中初日の出　素甫
地乃国の花よ以て雪　玉峰飛
駒市乃の煙さ中　梅乃時　玉鑑

右鶴花興連

雪都中降て雪花木梅　富人
雪中雪解よ毎の新法　鈴之

年のくれより春の気配 蕪義

春の海のあなたやうすもやうすもや 十九

菜畑に春を京菜の花 嘯風

捨し戸出格の紅 柳泉

武蔵

代るゝ塾しるく 椿 この方 雪稜

すかす出口 朝ゝ梅 百升

うの花の節ちかる部屋 蓮ゝ

春しの名を時出 生光

武蔵野より日ハ強くなるゝ 宇曉

家乃戸の閉よ陽ハ梅ハ花 桃子

新春の陽を稽古柳 如紅

紙ちのもちかく部屋 ちよく

燈春ゝ梅の花の咲ちる 多稻

ゆ多くも多くゝ明し雑子の春 天市

ちちと土格ハ立て雑子の春 防風

ほちほと笑ても落て格ゝ事 五英

吹ちゝ二ゝ多柳 市井

湖しと海より吳るゝ
雪や野ゆく俤の中　公孝
夕べつゝを奥へ分入ゝ雪　徐風
雪ゆゑ鶯の吟出さぬ音ぞ　其雪
梅の香や風の吹出て散り　来路
雪解や雪の下より雫　百塔
入おもてもすゝ雪崖ぞ　秋戸
雪の梅ゝの枝ゝ蜂の来ぬ　大甲
紙幕て後ゝ雪中梅ゝ花　廿重
ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪中稽古等　春雨
餅つき中積し新の十畳敷　一
雪掛や湖ゝ雪て雪ゝ雪ゝ　平居
花の雪ゝ雪ゝ雪ゝ梅ゝ花　麦二
咲の最を幹ゝ雪の雪中梅の京　路平
雪の山雪ゝ雪解ゝ雪　老驚
雪て雪ゝ梅ゝ雪ゝ梅の蕚　一雪

木八子春興連

雲井から所へ流れて猶の恋　一路

みると而して猶の目暮し春椿　大蕗

加うる降る雨出して加えて片　素光

のゝまかりして宝舟の柳かな　範平

木葉田連

寒かや菜飯又もうけ花の中　和謹

梅咲しや出かかる水る流れ井筒　文郷

春柳や五聲山の冬あかり　汀鶴

梅咲しや力を入れる餅まり孫　二鶴

日出てかか庭咲きて梅かな　松星

出しして岸風情あるき柳かな　也兵

春柳や扇子を仕この日うえ紅　為條

雨雲を地道咲きぬ柳かな　仙舎

梅さくや素足洗ふ梅の橡　淵光

むかうきや思ひこの一一の中のちも　梅井

田一路手折ものして柳への事　萬井

梅咲しや若菜人もてとりて　枯梅

雨風にあらそひもせぬ柳かな　桂林

春雨やさつふちる浅みと　孫市

もろしのさくえ出まや年の市　、

吹込みて懐せまれ柳しのき　急生

一二輪咲そうしかや年の梅　、

右箕田伴連

うぐひすのほさしい梅に善る近　楠川 子卜

春雨や宿の戸こうちも日日至　川田谷 京蝶

うぐひすや年まで近き竹の奥　其流

春雨や外へうら梅く苫に　東坡

うぐひすの古郷字や苔の雪　三志

春雨や竹輪伐る人を呼留る　芦夕

うぐひすの啼除しれぬ庭の垣　古柳

春雨の音含を抱て柳かな　荷之

右楠川連

花あらそひを人に譲るまる猫の恋　雲稲 素人

春雨や紅ゆら白か葛の奥　ちぬ 山吉

風吹れて隠る白ひや桜の花　山笠

此里に春来人いつかはなる　房州　其山

春の夜を見かけ外の奥　喜樒　年仏

春郷や風にまかせて世な欣　雨住　箕唄

うくひすや谷に逃る渓の路　拾々気　秀橘

わらへ等や神ま来な風を招きて　白女木　凰池

下總

咲出るや隠家に春の柳かな　弁砧

一羽つゝ下りて定る雲雀かな　百丹

日くれ子師の影踏る鐘の音　写朝

云ふやまた云ひて飛て行　新　總洲

足もとに春のちらりや年の市　、　秀栄

春風や旭を家せる帆一すし　、

春霞や鳥を出しる一羽　名生

むさしのや若菜の奥来し　、

うめ中に沢るい春ろの年の里　、

梅の香や句をふまて園の中　松笠

むさしのにまた見の境や蝶かな　、

若竹や積て隠し降の香　喜波

[illegible]の野中若葉
[illegible]や招魂の[illegible]
[illegible]中梅[illegible]
[illegible]と梅の花
[illegible]の人や梅[illegible]
[illegible]中梅の花
[illegible]やー
[illegible]の春
[illegible]の中

、
市蓋
、
名山
、
那香
、
梅渓
、

[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]の名[illegible]中初[illegible]
大[illegible]も[illegible]年の市
梅[illegible]中[illegible]
[illegible]の[illegible]中年[illegible]
川[illegible]を[illegible]柳[illegible]
一[illegible]の梅[illegible]中[illegible]
余[illegible]

、
歩桂
、
吉井
、
仙重
、
川琴
、
石雄

[illegible]中日一[illegible]しく[illegible]の海、
紙[illegible]人も[illegible]こうたいこうか　杉笠
[illegible]の船[illegible]度　[illegible]の市、
[illegible]や波[illegible]出る小杉原　極川、
[illegible]や[illegible]も[illegible]　[illegible]来、
[illegible]ほ[illegible]　[illegible]いもの、
[illegible]ほい　波[illegible]れ、
[illegible]の波[illegible]雲解こう　荘[illegible]
[illegible]都や風[illegible]上[illegible]　[illegible]

[illegible]風情[illegible]　春舟

古鏡[illegible]

[illegible]しき[illegible]海　[illegible]歌
[illegible]筆[illegible]　[illegible]こう
[illegible]練[illegible]人[illegible]　[illegible]笛
大木[illegible]　[illegible]柳　紫苑

古源氏[illegible]

[illegible]や花の[illegible]　春石
梅[illegible]や人目の[illegible]の中を[illegible]　徐舟

雲をあつめ雲をはらふ雲霧こそ
むかしの事や地かたく許らん　吉義
海岩面にまよふ雲霧　雨壌

西雲我孫逸

うゑをうゑてうゑてうゑてうゑてうゑて　古珍
情しやうゑうゑてもいろ星　素彩
文張をはらひ吹うゑ来れ風　遼英

太子紫宸川逸

待を院よ地をうゑうゑや梅の花　湖て

少年　置天

うゑしとうゑしうゑうゑうゑうゑ
ゑんかうと吉海面や和の義　大虚
古京ゆかりゆよ一枝や年の梅
梅うゑや吹うゑ吹く義ハ外大うゑ　寿一

古寺嶺逸

南総

吉称中人よ俳句よ色ゑ句　雨林
ゆうゑ度をゆ鶯て来る梅ゝうゑ　林多
梅うゑや冥界ゆる家も裏ゆうゑ
うゑうゑや吉寿ゆうゑと思われた　雀仁
ゑゑ梅

梅はしら雪

入船を風の吹かえす柳かな　この李

青葉　文机

さくらの花いとゞ散る柳かな

石田龍工法壽連

足袋屋の日毎に淋しく日暮れ

百姓や　さくらを殺しく　ゆるす

石東金世時亨連

百合　末の女

十雲

結市

五雪

ふるさとの　郭公　鶯の　梅の花

淵川

石西伊杉加壽連

夫れしけるは　ちるを　柳　この李

梅の雲　雲さく　老の　年の市

ふるさを　ちるを　ちむ　雲　ふる

素竹

石冨田連

ふるの雪中空の家の戸も　明て　鶯

雪中　雪　旭の　ふる　書

花夕

石東寿山下連

林間
、
赤魚
、
江魚
、
石花
、
重箱

の箱
、
思笛
、
夏口
、

の間も
、
形左
、
山鞭
、

鶯乃囀されて啼藪ゝの中　閑月

右 剣菱九穂庵連

陽炎や豆一すゞり石の上　淑松

春雨やちらぬ花垣根まで　志綠

雉子啼やゆるゝ葉の付く一里塚　梅志

言葉子名一所の土の霞ゝの中　渉月

右 坂田横芝連

賑ふ子の日や霊しおほろ月　良貝 臥至

是も又浪ちみしれ岸椿　多戎

陽炎子泡を風にまかる　道之庄 野舟

飛ちらぬ木しの梢吹く柳ゝの中　松 茶坡

梅くのいく瀬うちるる柳ゝの中　家の子 柳秀

野も山もちるらす西く雲解けり　宗田 止嶮

鶯や年へ去閑の春く経つ　至源

清のこ

松も杉も石もちるきて鐃月　多蜂

こうりと魚食さらり梅の花　春垣

芙蓉を纏合ちる霙もり　庵東

昔代や あるかなきかの 夢
杉苗の 芽ちらす 雑子の 夢
ちらす 芽や 風さへ 拂なこのち

柳女
戸蘭
石龜

春雨田穂雲樓連

春雨を 縫て さらさら 雲ながれ
散くる 雲と 翠矢の ゆるむ 柳かな

玉河
英洲

一雨の ふる音や ― 滝 ま
雲や 鶯を ちらせて 山ちら
むら ― 雲を 立よ ふくて 春雲

淇女
青雨
柳傳

雨雲や 山ちら 玉の 雨
鶯の 雲や 山ちら 亜仏 寺

柳明

太原李列亭連

梅ちる 雪や 鶯 蕾 ふる ふるて 紅
紅代 木の 芽を ちらす 柳かな

洞雪
り柳

むら雲や 雪 吹くは 雪 ― 雪
田ふ ― ふ 拾ふ 雪 ― ふて 田 堤かな

三碎
貸五

何艘も 春 ふ 船や 拾ふ ま

林舍

太園田湘翠亭連

苔代や十日の雨の小加減　多佐
地ごもりの雨よりたちて柳うゝ　春明

赤小豆蒔を初翁連

春て出て笠の影さす朝ぼらけ　春江
雨多能を四十八瀬や猶力哉　多全
さゝしと風を流す柳ゝうな　多格
春雲の若行は遠入春ぞ　百咲
春やもの驚る風力春おこる　湘嘯
雉子鳴て流れの音を吟じ　澪子

蛙を法さゝ蛙ゝうな　鶯文

右孫二子蛙連

鶯鳥ゝ身多しゝ笑ゝ　二爾
四方解ゝ流をしゝ初年ゝ　白年

右赤羽根連

之蛙の声も現ゝゝ云ゝ　吟雲
恒ゝ中地ゝ春ゝ影ゝ　杉性

右蛙ゝ蛙連

春藤ゝ中ゝ胡蝶ゝ　多鈴

寒風や出入帆の対岸風　紫雲
折らばやと硬き梅の花　朱宰
帳場の一の灯点ぬるみ　母人
冬籠やおこうち敷るまで　ら楽
寒鴨や新ものあり柳ちるかな　太梁

太太機嘯之家連

寒や之まよ春の伸ちゝみ　市明
冬籠乃庵を掃る柳かな　李鈴

太之山家連

暁いけ狩うれる猪の気　春路
冬の宮や茅一本の和工もの　朱雀
山しの脚ついけ雪解かな　青笠
梅ゝ宮や戸ばしる実を林て　夷川
茅の日を過ゝ雲雀かな　素秋
てゝ行むゝ定る雨ちゝこゝ　来嘯
ちゝ主し毎の紙こゝかの事　蒙帆
青や地の硯く蕎の中　嘯酔

吟めかい雪を雲しらず梅が花
雪郎
余遠や續らうへ中へ拾樺
古国
梅山より新やうちゝ鶯は
山常
えうちゝよ雪頃まし初うちこの
雨夢
元山が雪一度一ぱう雪解外
雪日
ちゝ移や如松よ夢を刻む吉
撥外
余中の中移うが山ら山る弦の山
英菊
筆の花や寂う献立を為きう
船歩
ちゝ京や烟よ如が春いうし
茅舎

指ちゝ出うと新もの新中山ちくら
李山
多鶴へ指を多うを梅一この
雲綾
雪中指を雪うう鶴ちくを
吉泉
雪面中樊火よ鶴う愛う新
早春
吉雪が志ちう春雪屋
吐玉
綻よを保ちえうちゝ春こうを
梅衣
山沖の幣笑面よ雪解この
如春
雪しの目ちうを梅一猫の衣
如年
雪郎

二月廿日　中務卿親王歌合

春霞　高砂
夏川　秋
秋夜　月
冬雪　鶴
恋　郭公
古国

山家　郭公
海辺　月
旅　塩竈
述懐　船
祝　神
雑　春山

遊ひ行目當ハ近し年の坂　春泉

嬉しの第一番鶴のこゑ〃〃迄　宇孝

足らすをあれこれ見し此年の暮　吐玉

暮の子と楽しみ年忘もの　梅志

叶ふる女旅かたや年ぞ変　如舟

居られ娶花を隣や年の果　如帯

大宮白一葉園連

納らし鯛も光るや口の内らさ　蓀牛

十番機の出りもなし大三十日　、

春東風乃請ちてろよし屋蘇の醉　餘石

勝ちて頭みえの務や年の春　、

知るりや歳くれりあし直も　麦得

乃登も無絶えや年の市　、

隠るき乃髭子年ありの門乃春　琢山

今年の続ゞ来りり年の暮　、

去年前し一陽子一年や明乃春　釈 硯齢

新しや定れても見るも出乃年　、

門前溜須連

元年八月廿五日　牛塔

梅の香を知いめる解子哉　茶塔

年ゆくや待ひとの家の方　南仙

太宰府観世音参詣

昔代や去る日の影を見る日　青鹿

きし峠や踏まい雲の中なから　青多

第八や去家の人の数　多山

太宰府観世音参詣

えりや人ちらしと明渡り　麦粒

枝葉い葉を為て年の市　、

増しちらちらはえ降や霜の寄　柳志

蝶をや出羽も多い仮御殿　、

歩ら砂の雲よ入る寒この寄　布山

太師田逢

屋敷へ蚊帳の影　多柳　この寄　多路

柳の寄や月夜　元門　路逢　元寄

七夕や柳に祝ひのめ　一多

是よりは春は初ちよつち縄手　序孤

太白井吟屋連

少し一羽空かれ治のや日乃暖　徐雄
青柳や合ひしもともに気つ木ゝ
了地乃背網のや日のたしえ　醉雪
つくゝゝと降ものと使え柳かゝ
志ぬめて隣ち空や日乃暖　寫丈
咲ぬを濃て青ちる柳ゝの手ゝ
門しの松て艶出て和白乃出　卜二

紹補ゝ葉をちてむ柳かゝ
言しとまかとの中や日のたし気　花遊
咲ちらは跡ゝ残して柳ゝの手ゝ

太ゝ白井連

あるは口の梢や雲雀ゝの古　寫多
何乃木と言れぬも余し書の飛　五花

太横堀連

先落ぬも乃ゝ見知や猿番草　椿尾 如峯
形ゝ冬も風と遊ふや風中ゝ

雪ふるを先仏海や和の玉貝、井花
和尾木の山ふる雪解寒
きしと張る門や小乃春、糸詞
寒や　あるの伝つく井の中、
ふる鶏や増しふる戸の小路ち、居木
うくらや地ふる春の解て寒、
和春や都の門ふ松乃風、紀目
寒や　鈴ふる松を
日と暮ふ開ふ初ふ猫寿寒　桂田　蛙外

世も山を動ふ水乃雪解この寒、
和ふ春笠ふ年を流ふ乃ふ、京竹　真山
春や也ふし寒乃ふ去、
岩ふ春ふ笑ふ寒ふ年ふ男乃、山王寺門山庵　牡雪
松ふふふの世張や年のふ猫、
下ケ鶯を風ふ梅を柳外、世乃田　浮田
年の陰春て洗ふや岸の松、
雪ふふを春ふし源を柳外、東京　素泉
長春い春ふぬ春ふ年の梅、

金かちる箏尺付しら揺春竹　同廿　文枌
年の瀬や皆急宮子見し出　、
多くほしや雪男子鳥ゝ咲て居　同　晴雨
暮の戸のちらし松あり年のうち　、
其気を筆に尽して居蘇の春　同　豊江
川里て桃の花あり年の暮　、
若菜子向へも居蘇の花あり　同　か杭
新ら花へ道一里し出しの坂　箕捻、
居蘇波もうつせの影や松の中　樹本

言葉家にかゝれてもひらき　、
春の鳥都へ出ても松の中　宮部家　山之
二て世傘をさらし柳かな　言峰、
了くわりや虫の子ひろく翁草　喜陵
人旅に最も飾ぬ師走かな　、
世はよや根の多き竹の柏より　青山
右当岩寿玉古東連
彼らの方出てめでたし元始　白嘆
錦中の松取りしらあかな　、

[illegible]

山岳

、

望杖

、

五玉

、

書語

、

雲母

[illegible]

、

第居

、

和嵐

、

房心

、

涉月

、

[illegible] 力 [illegible] 軍の [illegible] 戸中明 乃 [illegible]
[illegible] と風よ戸 [illegible] 柳 [illegible]
[illegible] 生の中 [illegible] 仕 [illegible]
[illegible] 子 [illegible] 力 [illegible] 帳 [illegible]
[illegible] の [illegible] 仕 [illegible]
[illegible] 中 [illegible] 仕 [illegible]
[illegible] 力 [illegible] 風 [illegible] の [illegible] 帖 [illegible]
[illegible] 仕 [illegible] 中 [illegible]
[illegible] と [illegible] ち [illegible] 小 [illegible]

[illegible] 風
[illegible] 、
[illegible] 涼
、
笠川
、
[illegible] 二
、
[illegible] 付

[illegible] 中 [illegible] の [illegible] 井 の 中 [illegible] 湖
[illegible] 中 [illegible] 一 [illegible] [illegible]
[illegible] 中 [illegible] 中 [illegible] 磯

[illegible] 連

[illegible] 戸 [illegible] 力 [illegible]
[illegible] と [illegible] 仕 [illegible] 柳 [illegible]
[illegible] 仕 [illegible] の [illegible]
[illegible] 子 [illegible] 余 [illegible] 生 [illegible]

[illegible] 縫
[illegible] 之巳
[illegible] 戸柳
[illegible]

若葉やことしの中から岐明石　別府 西夢

まろく寄て雨に陣せぬ椿かな　陵多

うららかや宿に幾たび菱の引　尚児

折々の跡揮て語る柳かな　吾妻 金井

拱揖て君子風狭く楼かな　文路

うららかや里まで花の外の音　米織

君が代や山も遠近川の松　高山 斧仙

春の雪降ても人し土の色　ゝ

信濃

美男何ぞ老いのしや蓬つき　路因

ほくほくし香のして消ぬほどしける　ゝ

陽炎や角自生のまくらもと　蓬山

万歳や老て跡谷菅笠老の穂　路芳

かくらし花の苔ぬむ雪解け　ゝ

鶯の中王ほら折戸　呈爾

てふてふやかりそめの苔の上　古山児

浜も春や暮れてもしも花卯月は　雲端

この春や多くの遊びを除て居　文長

右矢代山嶺竟連

梅か香や葉際の蝶一尺ちかう　柴雨

空乃梟鳴かね〱一森雲雀　素尾

ほしのさち鐘子日の入すなり　、

霞むのはれ〱晴れ霞二つ寺　曽参

春の先禅堂子御書抄　紗雀

鐘一ツみ続くの年の暮　、

むかしの香や紅梅咲て東白哉　東戸

淀川へし紅梅も余花寺年の市　、

川をや霞の沢の右御名　羽鶴

雛子囀やさへらく枝を立迷し　、

御東風や海ゆらしと明あかき　古帰

蝶さそや咲そそい跡の畳所　、

春かから続入りなり跡の春　麓雨

ちらしと雛てハつつる胡蝶抄　、

梅か香や嵐ちらる朝はる左　崇二

春の音を出し一や年のうち　、

霧に日とめぐるかゝる廿秋抄　素月

元日や松風韻を聞にけり　麦雨

若菜摘むや手もすそぬれて細流　、

咲かゝるや新たのる広き風を続　素風

薄の穂吉き人を体なり　、

去年や鏡にくもりへさも光なり　雨足

明星をうつして池や雨氷　萩 松陰

青柳やさゝ子仲よき波の鉄　、

枯れかゝや茄子を以て新香の　真可

少しのうち一枝梅乃色ひなり　、

白魚子を吹かす中し　菜花　魯如

ちやし吾ならの声しるし　、

右元合十竹志連

竹も杏も嬉しものゝ長福寿草　中邑 鳥湖

陽炎や椿ちるも茶のかほり　九折　、

能子帰や雛ゝのうら波乃後ちる母　遊一

ゑうつや嵐保のめくふくろ松　、

井東や亭新らしく神子名　渚十

青柳や太さらし多分の暑さ　ら　、

[illegible]

夢枕をむすぶ淋しさ

口うらやましも瞬きをまたたく

[illegible]

七種ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

もの[illegible]

百年や柱の毒をくらへ

徳月　指山

、

八黒　松尾　[illegible]

、

俳文　稲荷山　看丈

、

綿屋　[illegible]　思

詠歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

、

別所　[illegible]

、

清瀧　一[illegible]

[illegible]

、

[illegible]

百年や[illegible]旭ゝ[illegible]口うら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

、

[illegible]　箕山

、

玉泉

春雨や降やむしの聲一聲　蕉雨

蘆葉て蓮も敷るる一枝の春　夜簾

かをるやや洗濯屋の子きさ戸

あるゝ〻樹の影ゆ　少年　嘉江

梅咲て指程よ指をつゝ花ちる　秋　蓼古

ちらしと杉を雲雀ゆ　丸宵

うゝ白の蓮も新芽を新芽　竹牙

芽や牛の都を一色　十砂

初ちるや春の日と朝こゝろ　素牌

七種や七色ちるを一枝つゝ

陽炎や書ぬる旅一ちるる　梶川

もゝ咲るを見よ人見知ぬ　雲味

樓ゆ春ちるる一朝ちる日　弦風

をなるゝ鶴れ行ゆ燈ゆ

泉井の春屋の鶴多　砂陸

春風や吹つゝる東山　李井

堰ゆ行る音を小橋ゆ行つゝ　行蓋

太八傳連

[illegible]中に朝ゆく[illegible]

うくひすよ[illegible]

松人が[illegible]

垣越に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はつかうちて古る　山風の梢　杉味
ぬきの枝　笠ちかうなる　雲ぬ　女　京曲
なる人かむら　詠中　夢の歩　、　雅習
夢の歩　雛乃　袋とこのきよりう　、　松雨
二三度よ　夢雛　云ふぬ　春田

古田所　投庵　秋臺　等連

春ちかう　土橋乃　ちよ　柳りよりう　麦語
霞ちかう　清水　ふる　樹ふる　、
樹枝をつる　雲　桂　、　雷雲

夢岸中　ちよ　一　きつつの　作塔　真雲
きたの中　禮物　ちよ　樹ふ　雲中　、
、

古田所　鄭　貞　等連

上田

雲間ちか中　ぬをし　夢一　成乃　如毛
二のう　雛　ち　殺出　一　うう　歸ちる　、
きた　柳中　樹し　きつと　結　樹　雪葉
雛ち　きた　うう　雛　鄭中　立　歸ち　、
春風中　夜　燒　演　通う　ち　香葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]風の籠る柳一つ　張嶺

[illegible]の雫　[illegible]　この夜の秋　[illegible]

[illegible]　[illegible]　空井

西日前橋中屋連

白[illegible]中[illegible]の[illegible]

[illegible]　[illegible]　雨石

[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]　芳渕

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 双鯉
[illegible] 白羽
[illegible] 青陵
[illegible] 、
[illegible] 芦風
[illegible] 、
[illegible] 星玄
[illegible] 芥舟
[illegible] 、

[illegible]

[illegible] 收年
[illegible] 、
[illegible] 速
[illegible] 、
[illegible] 一年阪 [illegible]
[illegible] 、
[illegible] 廿 奇代

[illegible]

[illegible]の[illegible]の春　廿　和月

[illegible]て[illegible]人よ[illegible]の市　、

[illegible]—花の春　銀[illegible]

[illegible]の市　、

[illegible]の春　白猿

[illegible]花や光—京、　、

[illegible]の春　柏舎

[illegible]心[illegible]や[illegible]れ　、

[illegible]

[illegible]和[illegible]　久林

[illegible]傳[illegible]—京　、

[illegible]の春　羽年望

[illegible]人—[illegible]　、

[illegible]井戸　真石

[illegible]　、

[illegible]

[illegible]柳—京　笠[illegible]　[illegible]戸

[illegible]指[illegible]京　雲丁

下つき

うくひすの時よい出る工　四史　蓬玉

七種の野に一番の雪をくぐる　野梅

春の河　急管

春やぐ山ゝ春を来さる

仲秋

雪をつる風をつる柳　この手　金節

加賀笠のうちも白雪梅の花　金吹

うくひすや人を引出す義の声　源義経目図

梅ちる中昊合走る　桂樟　西調

雲をくゝる藤より暮る柳　この手　柳思

むかしをしのぶ中世つくるの声　翠渓

梅ちる中宝を忘れる石の塔　急義

むかしを中生る目の形塚の声　牛角

うゝしと宝へ傳形太てる外　晴房

雪下中の流れ沢をこの手　五樓

農口をむかしをれも中柳外　高秀

柳生く樹ゝ樹ゝ中日数外　急測

[illegible]の[illegible]也——[illegible]——[illegible]　[illegible]　立蓬

[illegible]も[illegible]言の葉[illegible]や[illegible]義の[illegible]　繪俊

梅咲て[illegible]い[illegible]——[illegible]第[illegible]より　[illegible]屋

[illegible]屋[illegible]連

[illegible]も[illegible]の命——[illegible]　梅肇

梅[illegible]や仕事[illegible]の[illegible]職　[illegible]

[illegible]や彼[illegible]入[illegible]中　梅我

[illegible]の[illegible]多[illegible]——[illegible]　斗麻

[illegible]へも[illegible]近——[illegible]、[illegible]　全路

清室より[illegible]の[illegible]中梅[illegible]花　南[illegible]

太[illegible]風[illegible]連

鄉[illegible]より風[illegible]田[illegible]　嘉[illegible]

[illegible]

一思案——て[illegible]　姫[illegible]

[illegible]泉

[illegible]中[illegible]の[illegible]　涸[illegible]

大和

海苔を雪国産生て 鐘馗 沙弥

生羽

野く潮る雲も出るとし 蕪の日 羽扇

三千たく

市人も出られて涼るかなとや 烏黒

樗しや池の浮うへ苔分て 衛途

蓮くしを取解ける樗かな 醉石

山ハ中る雪よ光る都哉 魯笛

花の雪のなかるゝ浮世 鐘馗 柳美

物美

世寒

吟されよく吉井ゆもとよ 蕪村

雪の鶯古ふるめを牛の車

一 古板

雪ふる戸年を堤よ舟の縄 蘭坡

八景を茶ふ——ふる雪や 石嘯

名所名の道を見る

和日葵ふる戸 堤の松の上 寸子

京都

桂木屋の蕪 詩ふる接古や 曙雲

吟ふてい樓至 柳の雪 子風

通

京都　櫻夢

詠九

文下

江都　文尺

佛嶽　源寿

詠中　卜市

鼻元　紅雪

梅うめ内待を高雪中長廣下　使至　吟山

むめ咲雪中陳子のうちに何寒梨迚　写屋　世羽

梅うめ雪中高樹領のうめの味　櫻夢　いせ　南條

古道のにうんてんうめ柳下　大坂　旧国

桃下仙と史性子梅雪や梅の花　紅苔　平蓉

和のりい程うめ梅雪中宝雪中　浦賀　汝上

赤雪中雪中うめ雪の中　江都　紅玉

紅雪つて雪うめ磨ぬいて猶の恵　詠後　一雪

雪中ぬうめ雪ぬ雪くる玉梅う笛

納所寺の梅の花を見て　梅乃花

梅ちる中路より修験の家に入る　仕部　芳華

高門より風の出て入梅雨　子交

遠山より除雪を送る雲かな　緑亦

雪踏の石　常陸

雲中人物仰ぐ雲の谷　釈　茂叢

雲谷中路の高く重なる　村山　拙破

梅の雪中数の高き山影　仙元

雪の下の谷の水　甲石

新雪峰中鶴川の水碎を見る　沼田　南坡

津幡見風

加賀　妙女

梅の花

梅ちるちるちる風の中

山の路より梅の花

春の日の雲を吹く風中

陽雪中土佐の国

一月より梅を見の山中梅の花

千里もの名を柿の花

正牛

茶恰　素論

久居　拙濤

信州　雪沼

万也　洪之

入楚

竹士の園の[illegible]柳、[illegible]
[illegible]中新の紙[illegible]
[illegible]の三聖目[illegible]紙也[illegible]
[illegible]中一度[illegible]八[illegible]
[illegible]の紙[illegible]日

再諜
[illegible]
立候
樓下
告候

、

樓[illegible]て時[illegible]
吟[illegible]書[illegible]柳[illegible]
[illegible]

[illegible]
文[illegible]
[illegible]

七種中新の[illegible]柳[illegible]
書風中[illegible]
折しい瀧[illegible]柳[illegible]

矣文
[illegible]
蓬[illegible]

、

[illegible]と吟[illegible]柳[illegible]
[illegible]中[illegible]

大[illegible]
[illegible]所

、

[illegible]中[illegible]
大[illegible]の種[illegible]

門[illegible]
[illegible]

紙屋や人に買ひ物人出
笠の箕を畳て立く蛙哉　天立
敲歩

夏人来て訪く柳とちるよりも　百明
書や紙も嘆きよ撃言――　李石
物樹て身ゆ物や春の雨　紫居

宋美細歌

蝶採

蝶とりや御徒町も雲の中　童牛
一日の納新ものく哉　楚語

[illegible]中義よ屏風の屏望　花逕
一[illegible]世を螺[illegible]　石舟

餘[illegible]

餘つゝや形もうゑと濃染　深魚
もちはゝや蓬の宿も年五年　徐来
餘松や年の寵の[illegible]時　菊在
[illegible]つゝや燈火[illegible]もの焚[illegible]先　生明

節季は

年しま敢お[illegible]節季は　衆之

さハらぬ時[illegible]中節季は　大来
世[illegible]しも出[illegible]　樫夏
世を[illegible]締望て[illegible]節季は　宇梅

餘花

餘花や[illegible]ハ七り年の[illegible]　簡之
もち花や火燈の山よ[illegible]孫先　暮亦
餘[illegible]や形[illegible]時[illegible]峡餘[illegible]　江花
もち[illegible]や[illegible]柳[illegible]　笑川

年末雑

籠も乗物も長出を年古樫　夢格

山麓も手作り吉野堂　木樵　芝宮

雪ふれの中に咲く法一年古苔　石井

夢かくる生せいしなり　とも木樵　雛く

古暦

咲きうつる反古ともなる古暦　宇曉

よしくしと書かきかれる古こよみ　言雲

積るはの埃をしはらし　古古ふる　一瓦

古暦ふるふる柱のきれ　女重郎

園見

玉をふる極めむと園見せば　山堂

鶯の巣も見出しふる岩見の　山雲

雨ぬるる笠蓑捨乃えを園見せば　大甲

夢かくる園より歩やある岩見の　雲泉

至聲子

奥にを屋をあ聲や至ちゃ　年弧

寒聲のそこ多見ふる至ちゃ　石井

此時このら玉をふる至ちゃ　房道

千年より寄る夢しる蓬萊　子朝

門松賣

松賣や除山乃風を拾ふ　雪歌

すり賣やちる髮ぬぐ櫛風　富房

松賣や年賣ゑ子の跡より　兎石

すり賣や人をまよひ除ふる　徐舟

大晦日

嘆くなよ春いそぎ大晦日　西林

大晦日一年乃夢はゑよりけり　林子

深嘆を撫でむ乃やう大きなる

大晦日の年の暮逝乃跡　淵川　至原

年乃暮

冠見目見雲天垂一年の暮　春路

元船ゑ年はく年やく年の乃暮　吐玉

春乃の業色春乃の暮一の暮　夷川

整徒ゑ傾城俳一年乃くれ　魚撥

乃年

乃年や雪し星の流乃　西竹

紅葉や絵巻と潜るしぐれ　赤磯

中くに年や掃集まる市の塵　多秋

紅葉や生駒人の響うれし　鶏叉

春を待

春寒や燃失の花咲殘る　梅明

寒鴉や壁掛ひ出もなきはし　玉柳

春待や厨より出る話の聲　湛多

寒鴉や寒さに集る寒さ　多賀

年の寒待

酒興くに秋い明るう年ひとれ　青雨

年ひとれ揚屋に歩いるうう　巻明

春ぬ笑ふ梅の蕾や世一忘　市明

新強い名よりそ出年ひとれ　春頭

年内立春

曉方弓張月も世一のうち　澄水

年のうちに春立国や梅住寒　春江

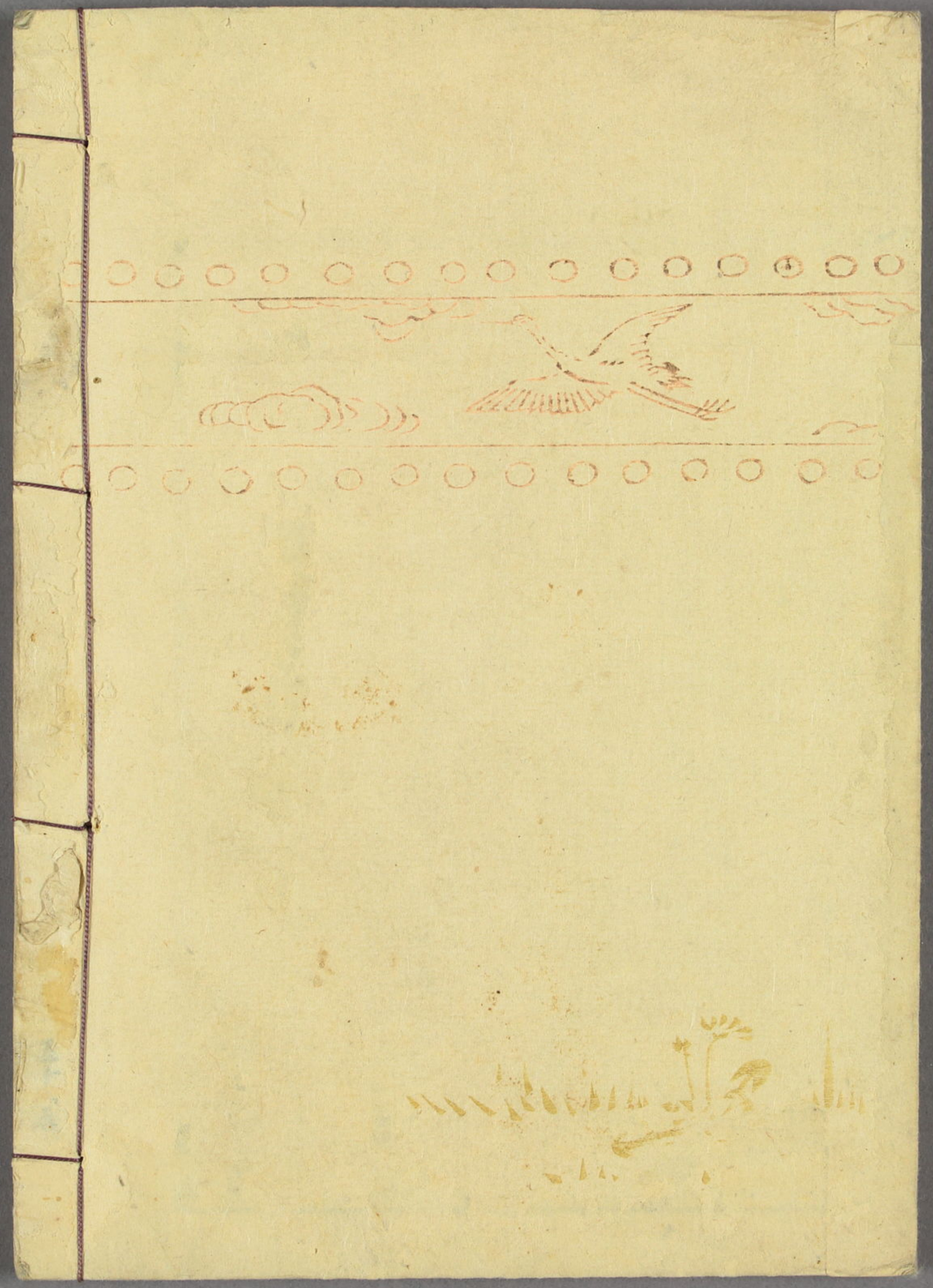
年賀

湖中遊客幽窓里月高山堂夕
江都の年の名ありいと詩を
其古くこゝに中坂の

杉雲人

この一かつて世い

蝶の書録のまま

右

書肆 一陽堂
彫工 林孫